



10:1 さて、アビメレクの後、イスラエルを救うために、イッサカル人、ドドの子プワの息子トラが立ち上がった。彼はエフライムの山地にあるシャミルに住んだ。

10:2 彼は、二十三年間、イスラエルをさばいて後、死んでシャミルに葬られた。

10:3 彼の後にギルアデ人ヤイルが立ち上がり、二十二年間、イスラエルさばいた。

10:4 彼には三十人の息子がいて、三十頭のろばに乗り、三十の町を持っていたが、それは今日まで、ハボテ・ヤイルと呼ばれ、ギルアデの地にある。

10:5 ヤイルは死んでカモンに葬られた。

10:6 またイスラエル人は、主の目の前に重ねて悪を行い、バアルや、アシュタロテ、アラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アモン人の神々、ペリシテ人の神々に仕えた。こうして彼らは主を捨て、主に仕えなかった。

10:7 主の怒りはイスラエル人に向かって燃え上がり、彼らをペリシテ人の手とアモン人の手に売り渡された。

10:8 それで彼らはその年、イスラエル人を打ち砕き、苦しめた。彼らはヨルダン川の向こう側のギルアデにあるエモリ人の地にいたイスラエル人をみな、十八年の間、苦しめた。

10:9 アモン人がヨルダン川を渡って、ユダ、ベニヤミン、およびエフライムの家と戦ったとき、イスラエルは非常な苦境に立った。

シャミルもヤイルも「小士師」と呼ばれ、聖書では有名な方ではありません。しかし合わせて55年もの間、イスラエルに平和をもたらしたのでから、その働きはすばらしいものでした。「有名が無名か」「評価されているかいないか」は人間の基準で

あって、神様ご自身の目にはまた別の話です。人からほめられるよりも神様の役に立つことを考えましょう。

イスラエルはまた神の恵と守りを忘れて、「神なしでも大丈夫」「神に従わなくても何とかなる…」と、「主を捨てて」しまいました。神を忘れるだけでなく、過去の失敗をも忘れてしまったのです。または自分たちの失敗を次世代に教えなかったということも、その要因でしょう。

神の民の歴史は、常に神様の栄光が語られるべきであり、人を美化したり不都合を隠したりすべきではないのです。私たちも過去を分かち合うときには気をつけなくてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

